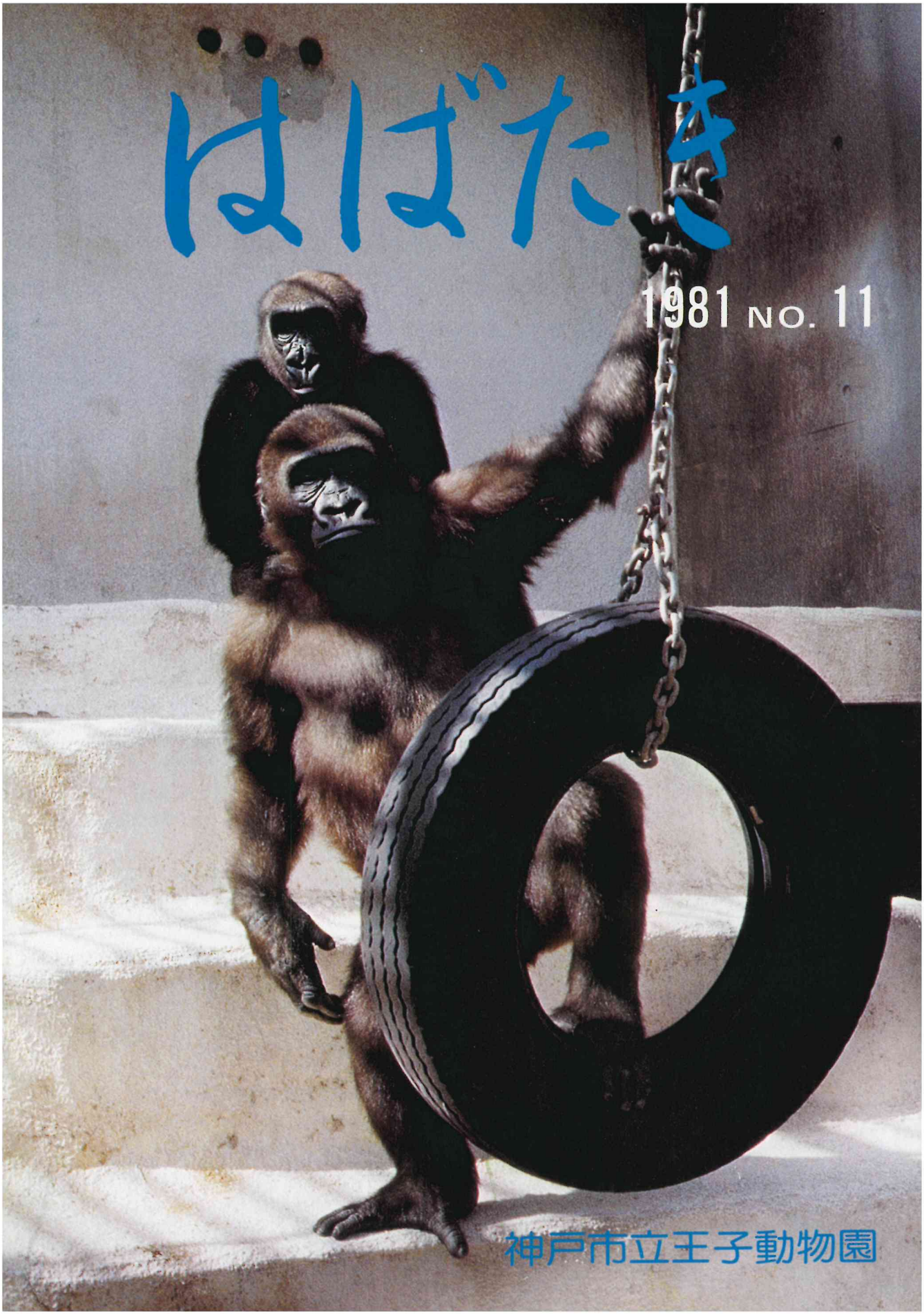
はばたき

1981 NO. 11



神戸市立王子動物園

動物体験

叩きつける雨に変って、叩きつける陽光の季節がやってきた。あい変らず園内は動物たちに会いにやってきた、子供と親、お年寄、若い人、様々な年令の人が、それぞれの見方で動物たちに接している、なかなか素晴らしい事だと思っている。

「かわいいな」、「かっこええな」子供達の声も様々なら、子供と共に興じる大人、もう一つ何かむつかしい顔で眺めている若い人、と各人各様である。

しかし幼い子供が覚えたばかりの言葉と、その表情のありったけを使って動物に話しかけているのを見るのは本当にうれしい。

私の幼年期というと、動物といえば飼い猫と、農家であった為、生活を共にした働き手の牛と馬であったろうか。子供ながらに飼葉づくりはいやであったが毎日いっしょにいるので、それが自然であったし、じっと見ていると、たまらなく可愛く思えてくる時があった事など覚えている。

現代では動物と共に暮すことの出来ない子供達が増えているのが実情である。それだけに動物園の役割りも大きいものになってくるのではなかろうか。動物園は、人としての大切なものを育む幼児期の動物体験の場として、今になくてはならないものとしての自覚が深まる。

幼児の好きな動物といえば、まず頭に浮ぶのが、ゾウそしてキリンであろうか、私が見ても実に優しい眼をしているし、特徴が摑みやすい、それに何といっても大きいのである。子供たちも、学校に入る頃になると、好きな動物もまちまちになる様である。見方に個性が生まれるというのだろうか、〝見る〟という動作に〝観る〟という心が加わる、擬人的になるのも、成長の一段階であろう。動物を通して、心の成長や動きが確かめられれば、こんな尊いことはないと思う。

私の娘は犬の散歩に行く度々せっせと蝶の幼虫を採ってきては観察ケースで育てている。成虫となり大きく美しい羽を拡げる朝、空に放ってやっている。それが何かしら、たまらなく嬉しいらしい。私も此の頃写真機など持って一緒に観ているが、澄んだ空に黒い羽を開いて飛んで行く優美な姿に、ただ見とれるばかりである。

人間だから動物と共に生きることができ、また動物によって人生を豊かなものにも出来る。

動物たちを飼育する担当者は、考えるより前に、既にそれを感じ、さらに毎日を新鮮な感動で満たす事に努めている。

園が人々のやすらぎとなり、また幼い時から動物園に親しんで成長してゆく今の世代の人達にとって、大切な心と現象を学びとってゆける場所になることを願いつつ、日々、努力を続けている。

神戸市立王子動物園 園長 山 神 正

もくじ

■ 動物体験 2
■ 特集 7年ぶりの中国訪問 3
■ パンダが神戸にやって来た!! 5
■ 飼育こぼればなし 6
■ こどもたちの横顔 8
■ 動物育児日記 10
■ 動物なぜなぜ問答 12
■ 動物もの知り手帳 13
■ トピックス 14

表紙の写真

6月22日にやって来たゴリラ

（写真 福田元二）

7年ぶりの中国訪問

訪中記 特集

橋本昭一

昭和55年10月下旬、7年振りに中国を訪問いたしました。目的は昭和54年に天津動物園へ贈呈した雌かばにおむこさんを、という事で、当園産の雄かばを天津動物園へ無事とどける事でした。

往路は中国船天津船籍の大城号でしたが、天気が好いのに波浪高く、かばも小生も少々船酔い気味で、ほとんど食事もとらず、4日半振りで天津新港へ上陸した時はほっとしました。船長はじめ、船員の大半は天津市在住の方でしたが、日本語の話せる方が全くおられず、当方も中国語が駄目で不自由な船旅を覚悟していましたが、船員の皆さんと漢字の筆談をしたところ、ほとんど不自由も無く、そのお陰で多くの友人が出来ました。

天津新港へは李永徳園長・剤文生獣医・李国義通訳等6名程出迎えに来ておられ中でも新港の*Penavico*代理店の姚独成氏は、7年前にも新港上陸の際、出迎えに来られた方で、大変なつかしい感がありました。

天津では人民公園にいる雌かばと早速同居させたところ、友達が出来て嬉しいのか、非常に仲好く同居生活に入ったので、天津動物園の職員も大喜びです。

昭和48年8月の訪中は、北京動物園へチリーフラミンゴ10羽贈呈が目的で、上海・広州の動物園を見学しましたが、天津は車で通過しただけで、立ち寄る事がなかったので今回が初めての天津訪問です。

再度訪中で一番感じた事は、その間に4人組がたい捕され、国内状勢が変化した為か、中国人の日常生活や精神状態が非常に変った事です。以前は何となく憂うつな感じで生活していた中国人が、今回ははつらつとしています。また公園等では若いアベックが抱き合ってすわっており、年金生活者の老人達ものんびりと余生を楽しみ、公園のあちこちで鼓弓の合奏をしたり、日向ぼっこをしている風景が見られ、服装も色物やスカートが多少見られるようになっています。

天津動物園はもともと水上公園の名称で、その一隅にあったものですが、現在はそのままの場所で水上公園と切り離し、天津動物園という

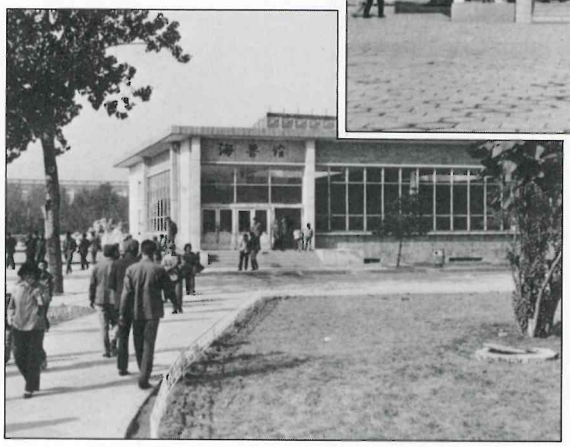
名称になり、正門も近い将来出来上る予定です。面積が充分あるので個々の獣舎も広く間隔もおいて建てられておりますが、まだまだ歴史が浅い為か、展示動物の種類や点数が少いようです。

ごく最近に建築された動物舎としては、鳥類舎がありますが、展示する鳥が無いので鳥舎内では菊花展を開催していた次第です。また現在人民公園にある古いかば舎には摂氏26度の温泉が湧いており、冬期のかば用プールには最適です。天津動物園の方でもかば舎を新築中ですが、ここでも温泉が出るそうで冬期になると零下15～20度以下に下がる天津でのかば飼育には好条件です。

現在までに王子動物園からは、キリン１番、かば１番、チンパンジー１番、くろひょう１番、インコ２羽が天津動物園へ贈られ展示されています。

今後動物舎の新築及び動物の種類と点数を増加し、園内整備する事により、天津動物園は中国でも有数の動物園となることでしょう。

天津市滞在中は、外事弁公室副主任の馬新先生の招宴、園林局長安延増先生の招宴、李永徳動物園長の招宴等があり、小生１人だけに毎日４～５名の方々がついて回られ、大変な御世話になりました。



天津市では仕事が終ってからは、なつかしい北京動物園の李長徳園長にあう為、自動車で北京へ向かいましたが、道中独楽寺と清の東陵を見学しました。

独楽寺は中国でも名寺の一つで、清の皇帝の静養施設の一つであったそうですが、国民のことを考えずに自分一人楽しむ為の寺であったので独楽寺という名がついたそうです。

北京動物園では古い友人の李長徳園長ともあう事が出来、７年前に10羽贈呈したチリーフラミンゴも１羽死亡したが、その後繁殖に成功して現在合計22羽に増加しており、王子動物園としても嬉しい限りです。

この７年間に北京動物園にて新築された動物舎は、類人猿舎、海獣館、両棲爬行動物館（は虫類館）で、類人猿舎は７年前に工事中だったもので、チンパンジー・オラウータン等を、海獣館にはマナテイーが展示されており、なかでもは虫館は大きくて立派な建物で、ワニ、ヘビ、トカゲ等多種のは虫類が展示されています。

最近の北京は動物園をはじめ、各観光地に外国人が大勢来ており、７年前と大変かわっています。北京空港も立派な建物を新築して国際空港らしくなっていました。７年前の中国からの出国は、空路が開設されていなかったので、すべて広州から香港を回って帰国したものですが、現在は便利になったものです。

パンダが神戸にやって来た!!

3月10日、皆さんお待ちかねのパンダがポートピアの会場にやって来ました。

はじめのうちは長旅の疲れ、慣れない新居、多勢の観客、そしてあのフラッシュ責めなどで、少々グロッキー気味でしたが、今では2頭とも元気に神戸の初夏を過ごしています。特におすの寒寒君は日本の食事が気に入ったのか、竹・ミルクがゆ・リンゴなどをペロリと食べてしまい、来館以来4キロも体重が増えました。

「よく食べ、よく遊び」が、寒寒君のモットーです。運動場ではボールを追っかけたり、でんぐり返りをしたり、果てはプールに入って背泳ぎをひろうしたり、見ているお客さんは手をたたいて大喜びです。

めすの蓉蓉はと言えば、岩の上で横になって、元気なおすをながめていることの方が多いのです。やはり年のせいでしょうか。

それでも、時にはリンゴをボールの変りにして遊んだり、頭の上にのっけたりして、ちゃめっ気はおすに負けていません。

さて、皆んなが期待していた「パンダの恋です」が、寒寒君が若すぎるということで、神戸では実りませんでした。でも、来年は故郷の中国で、きっとりっぱな青年になって、寒寒にプロポーズしてくれるでしょう。いつか又、かわいい子供をつれた寒寒・蓉蓉の夫婦に会えればいいですね。

（村田　浩一）

飼育こぼればなし

◎かばのお母さん13回目のお産

昭和56年５月30日午後５時30分かばの茶目子は13回目のお産で、メスの赤ちゃんを生みました。

赤ちゃんの大きさは体長約80cm、体重約30kg体高40cmの標準サイズです。

かばは水の動物といわれ、結婚、出産、哺乳共に水中でおこない、鼻も耳も、水中で水の入らないよう閉じることの出来る構造になっています。

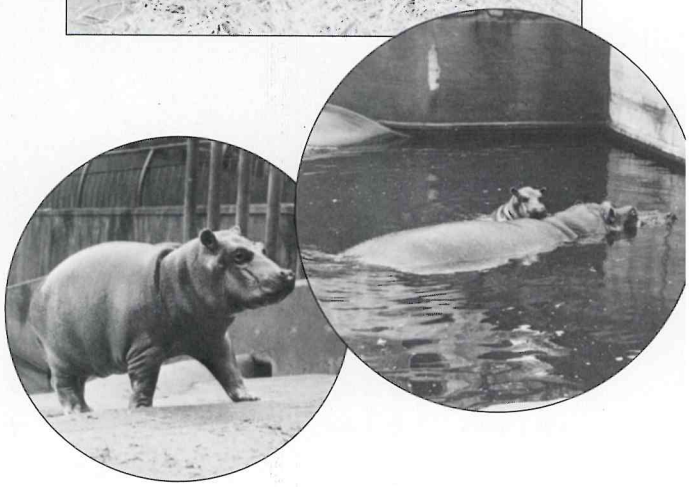
目と鼻は同一平面上にあって顔面より多少とび出しているので、水面上に目と鼻のみを出してあたりを見回したり、呼吸をして潜っています。赤ちゃんは水中で生まれるため、すぐに泳いだり、潜ったり出来、母親の乳をさがし、水中で乳を飲みますが、母親も乳を吸いやすいように全身を多少横に向けてやります。

生まれたての子供は、早い時で１時間、長くかかる時は６時間後にやっと乳首に吸い着き、子供ながらに苦労して乳首を探していますが、最初飲んだ時は、子供の口からパッと白い乳がこぼれます。最初の哺乳は40秒～60秒ですが、日に日に哺乳回数も多くなり、体力もつき、元気になって生活の要領も覚え、早いもので生後20日～25日ごろになると母親の飼料を少し食べるようになります。

かばは１日のうちで６時間ほどは陸上に上って生活しますが、水中の方が安全で落着きます。

生後４年で成獣となりますが、王子動物園では、生後２年３ケ月で成獣となった経験があります。野生と異り、飼料の関係で早熟なのでしようか？

第９回目のお産の時は昭和50年２月７日の冬

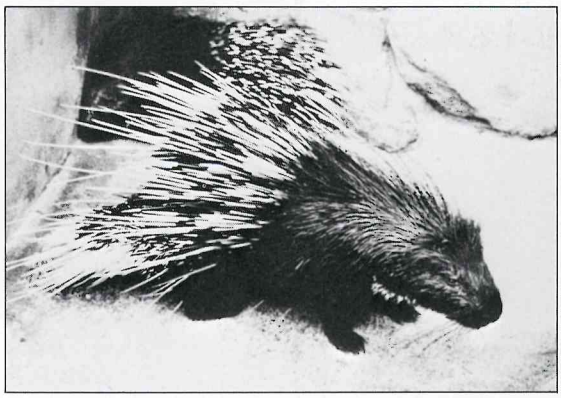


の寒い日に出産したため、寒くて親の乳も飲めず、２日後に死亡したことがあり、昭和53年12月19日の第12回目の出産の際はプールの水をプロパンガスにて暖めて成育に成功し、現在天津動物園にて元気に暮しています。

しかしガス代が非常に高くつき、かば１頭購入する程かかりますので、その後は暖い季節に出産出来るよう調整して飼育にあたっています。

（米沢　昌）

◎ヤマアラシを飼育して



ヤマアラシはリスやモルモット、ビーバなどに近い動物で、アフリカ、南アジア、北アメリカ、南アメリカにすんでいます。動物園で飼育されているのはほとんどがインドタテガミヤマアラシで、飼はパン、ハクサイ、サツマイモ、ニンジン、時にはアカシヤの新芽なども与えます。

ヤマアラシの仲間は上下１対の門歯をもっていて、とくに上あごの門歯はのみのような形をした歯をもっています。この歯はだんだんのびてきて、とがなくてはなりませんので木をかじって歯をととのえるのです。

また背中にはすごくとがった毛の変化した長さ３センチから40センチまでの針毛がたくさんはえています。この毛に刺されるとトラ、ライオンなども死ぬことがあるそうです。

このヤマアラシの「ダン」と「マミー」は私が飼育係になった時はもうすでに来園していました。(昭和33年１月メス、37年８月オス来園)３ケ月ほど見習期間がすんで最初に担当したのがこの動物です。

何日かたって交尾を発見したので子供ができたらよいと思って室内にリンゴ箱大の単箱を作って入れてやりました。

ところがあくる日になって室内をのぞいて見ると単箱がありませんふしぎに思い何度も見たのですがやっぱりありません、なんとわらの中に小さくのみでけずったような木のくずとなってまざっていたのです。

又ある日の夕方「ダン」と「マミー」を室内に入れようと思いトビラをあけたところオスの「ダン」はすぐに入って来て飼を食べていましたが、メスの「マミー」は入ってくれません。しかたなく運動場に入っておいかけて入れることにしたところが室内に入っていると思ったオスの「ダン」がすごくとがった毛を立てて、毛をすり合わせてシヤラシヤラシヤラと音をたてながらメスのマミーといっしよになって私しの周りを廻りはじめたのです。

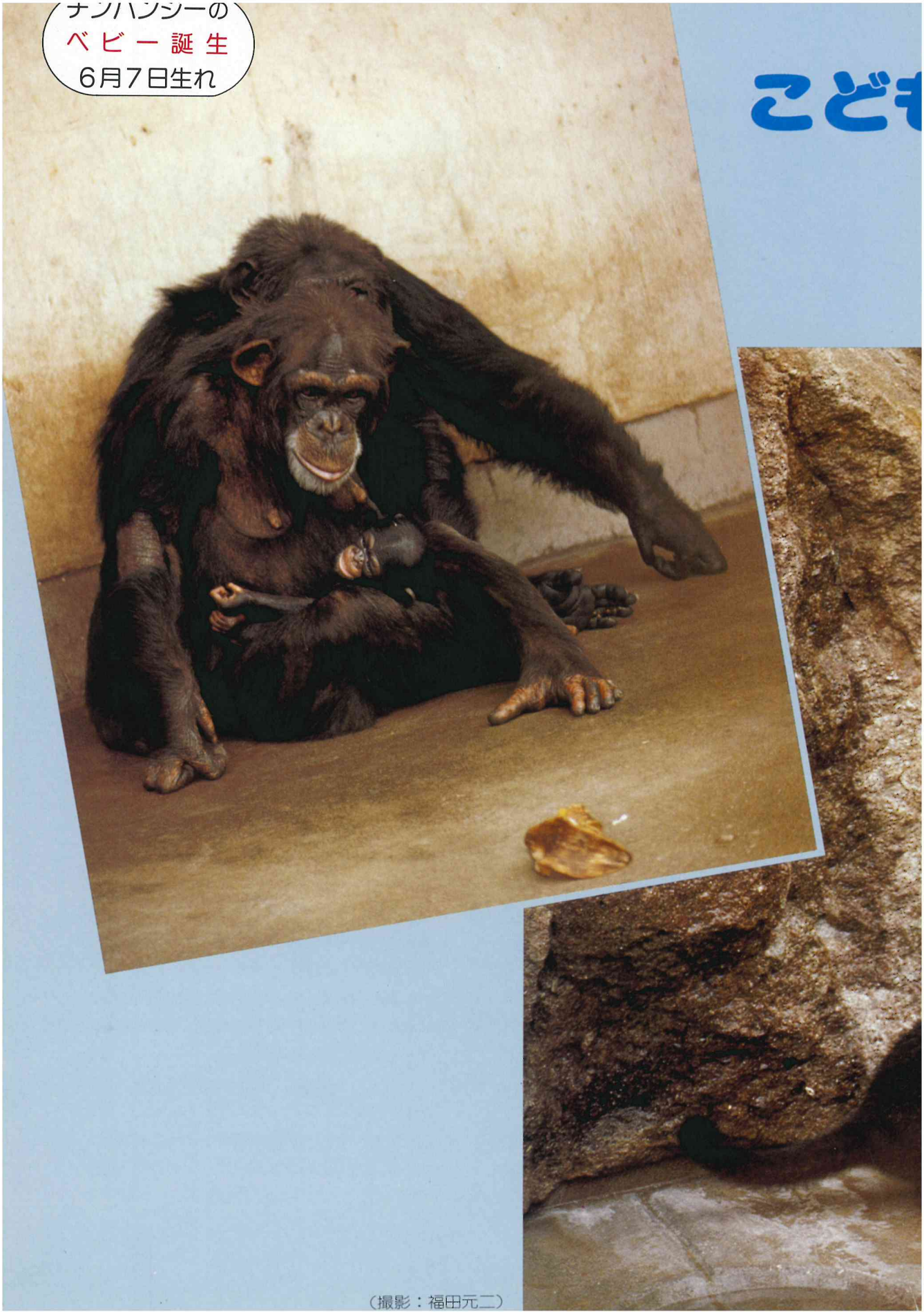
ぐるぐると何回も音を立てながら廻っているのです。その音と毛のするどさがわかっていますので外に出たくとも出れませんでした。何時になったら廻るのをやめてくれるのかわかりません、なんとその時間は10分ぐらいが２時間にも３時間にも思えました。２頭が室内に入ってくれた時は背中は冷汗でびっしょりでした。いまでもその時のことを思い部屋に入ってくれた時はほっとし仕事がはかどります。

私より古いこのヤマアラシたちはいまでは、ヒグマ・ゾウ・カバたちに次いで古参の動物になってきました。

いつまでも元気にいてくれるように祈っています。「ダン」と「マミー」の飼育舎も、来年には新しくなり広い運動場であそべる日も近いのでよろこんでいます。　　(小西　正俊)

チンパンジーの
ベビー誕生
6月7日生れ

こども



（撮影：福田元二）

たちの横顔 開園30周年の新しい生命（いのち）

こで紹介するのは、30周年に生れたチンパンジーの〝ポピアちゃん〟と
ョウのベビーたちです。
かし、これ以外にも多くのベビーが誕生し、すくすくと育っています。
にカバ「茶目子」は、13回目の出産で子育てのじょうずさには感心して
ます。また、例年１羽しか育っていないタンチョウが、今年は２羽ふ化
、元気に育っています。

動物育児日記

ヒワコンゴウインコのヒナ誕生

この度、当園で初めてヒワコンゴウインコのヒナが孵化しました。このインコは、インコの仲間でも、一番大きいコンゴウインコの仲間で、他にヒヤシンスインコ、ルリコンゴウインコ等がいます。

当園では、入口東側のインコ舎に、全身がミドリ色で口嘴の上の羽毛が赤いヒワコンゴウインコと、全身がブルーのヒヤシンスインコを並べて展示しています。

産卵

4月上旬頃から、まず雄が時々巣箱に入る様になり、その次に雌雄共に巣箱へ入るようになりました。特に雌は長時間入っている事が多くなりました。この様な状態が続いたのち、4月27日と5月1日に1つずつ卵を産んだのです。大きさは、長径49.4mm、短径39.5mmで、ニワトリの卵とうずらの卵のちょうど中間ぐらいあり白色ですべすべした光沢をもっています。

抱卵・孵化

抱卵は雌だけが行ない、28日目の5月29日にヒナの鳴声が聞かれ、それで孵化している事がわかりました。

姿は、親が隠しているため見えなかったのですが、あくる日採餌のため母親が巣から出て来た時にのぞいて見ると、親指ぐらいの大きさのかわいいヒナが、1羽元気に鳴いていました。

ヒナは丸裸で、眼も開いておらず、弱々しく見えましたが、母親が腹の下にやさしく抱えてしっかり守っています。

残りの一個は、残念ながら無精卵でした。

育すう

餌は、ヒマワリの種子、麻の実、ピーナッツ、リンゴ、パン、ミカン、煮たサツマイモ等を与えていますが、親がまず食べてそのうで軟らかくした後、口うつしに小さなヒナに与えていました。

ヒナは非常に早く大きくなり、3日後にはピンポン玉ぐらいになり、手羽の長さも2～3cmぐらいになりました。さらに2週間後の6月13日には、大人の握り拳ほどの大きさになり、嘴も黒く、眼球もわかる様になりましたが、まだ皮膚がかぶったままで開いていません。眼が開いたのは6月24日でした。

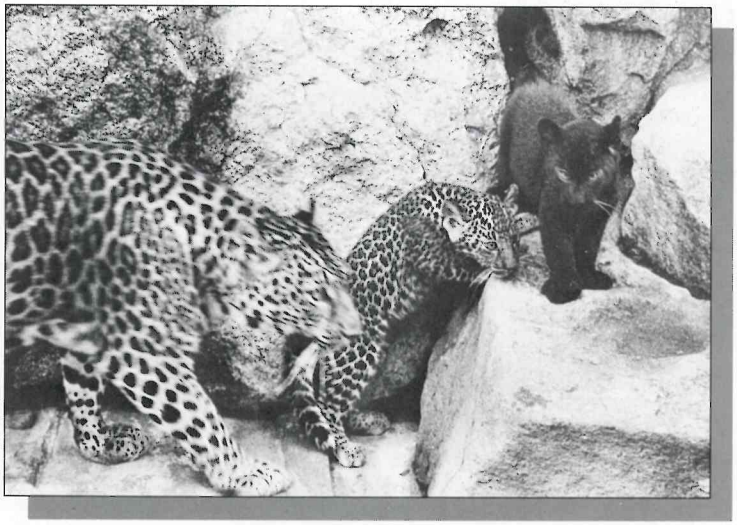
6月28日現在、大きさはハトより少し小さめで、背中に綿羽がはえ、風切羽、尾羽がはえ初めたところですから、ヒナが巣から顔を出すのは8月頃になるでしょう。

今年は、この外にヒヤシンスインコと、全身が白色で頭に黄色の飾り羽のあるコバタンも産卵しましたが、残念ながら孵化しませんでした。

12年前には、ルリコンゴウインコで繁殖賞を受賞している当園ですから、今回の成功に続けて、なんとか来年はこの2種類のインコ達の2世も誕生させてたいと思っています。

（吉竹　渡）

ヒョウの夫婦に黒ヒョウの子供が5頭も



黒ヒョウは、猫科の動物によくみられる、黒化現象（色素が黒く沈着する）によって毛色が黒くなっています。しかし黄色のヒョウと同じ種類で、見えにくいですが、輪状紋とよばれている〝はん点〟があることが分かります。多く生息しているのは、東南アジアの深い森林のうす暗いところであって、黒ヒョウの毛色は、いっそうめだたなくなり、環境に適応した毛色の一つだといわれています。ふつうのヒョウは、平原の木かげなどに適しており、黒ヒョウのは、暗い所に適応したわけです。南アメリカの森林では、黒ジャガーが生息するし、熱帯林にすむ、ヤマネコにも黒変種がみられますが、いずれも黒ヒョウと似た環境への適応であって、熱帯林では、このように黒変した個体が多く生きのびるという説もあります。

さて、みなさん、ヒョウの赤ちゃんが今年も、４月28日に２頭誕生しました。子供はメス親だけで育て、体重は、約600ｇ（少しオスが大きい）目は閉じたままです。（約１週間で開らく）３週間で歩きまわれるようになり、約50日で肉を食べ始めます。木登り、水泳はたくみで、特に木登りが好きで、３ケ月もすると、運動場の垂直に立っている木のてっぺんで遊んだりします。ところでこの度が４回目の出産ですが、またまた、黄色のヒョウが黒ヒョウを生んだのです。オスもメスも黄色のヒョウなんですが、子供は、１回目が黒色でオス。２回目が、黄色メス、黒色オスの２頭。３回目が、黒色２頭（オス、メス）。４回目は、黄色メス、黒色オスです。７頭生みましたが、２頭が黄色、５頭が黒色です。性別は、オスが黒色ばかりで４頭、メスの黒色１頭、黄色はメスばかりで２頭です。（附図参照）

ヒョウ夫婦出産表

回数	出産年月日	色別／出産頭数	黄オス	黄メス	黒オス	黒メス
1	S．53年 4月14日	1			1	
2	S．54年 3月27日	2		1	1	
3	S．55年 6月21日	2			1	1
4	S．56年 4月28日	2		1	1	
計	4	7	0	2	4	1

なぜ、黒いヒョウがこれだけ多く生れるのでしょうか、これは記録的な出来ごとで、飼育場の高い自然石の岩場や奥まった寝室にもなにかの要因があったのでしょうか。さらにまた、みなさんもよく親の毛色を見て頂けたら分るはずです。オス親よりもメス親の毛色が、いちだんと黒っぽいのです。こうしたメス親のもつ黒い色素量の多さが、生まれる子供に出てきたのでしょうか、遺伝的なものか、その謎を解く事が出来ると面白いと思っています。さらにまた、この黒ヒョウたちがどのような子供を生んでくれるのか、私達の興味はつきません。このヒョウの夫婦が、これからも健康でさらに多くの子供達を生んでくれるようのぞんでやみません。

（田伏　興志明）

動物なぜなぜ問答

パンダのウンコは……

その1．　くさいか、くさくないか？

「ウンコやから、くさいのはあたりまえや。」、と皆んな言うやろけど、ほんまはくさくないねんで。なんでやと思う？

その秘密は、パンダが食べているあの「竹」。ウンコのくさい臭いを消してくれる働きがあるねんて。

そやからパンダのウンコ、鼻に近づけたら、ほあーんと竹のええ臭いだけがするで。

その2．　食べた順番に出てくるウンコ!?

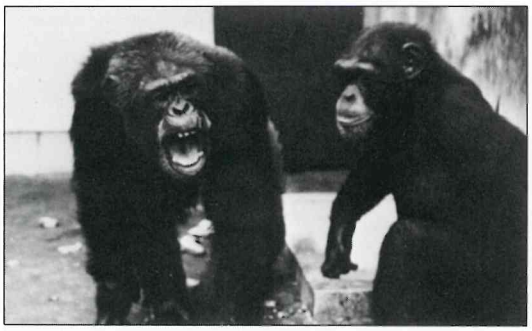
おかゆ、竹、リンゴの順番に食べたとするやろ、そしたらそのまま、おかゆのウンコ、竹のウンコ、リンゴのウンコの順に出てくるんで。なんでやと思う？

ほんまはパンダ、肉食獣みたいに腸が短かいねん。そやけど草食するから、あまり消化されへん。そいで、お腹の中を早いうちに通ってしまい、食べた順に出てしまうというわけ。

パンダが食べたリンゴが、あまり消化されんとウンコになって出てくる時間を計ったら、6時間40分ほどやった。

（村田　浩一）

サルは何故、人間にもお尻を向けたり、口をパクパクさせるのでしょうか？



これはよく見かけることですね。しかし誰にでも向けているようでもそうではないようです。顔見知りであったり、何か物を与えようと声をかけた方々に向け、くるりとお尻を向けたり、口をパクパクさせます。

ご存知のようにサル社会はきびしい順位社会で上位のオスの前でさえ横切るとき、攻撃されるおそれがあるので、何かあいさつをしています。

そうした〝あいさつ行動〟のひとつが、こうしたお尻を向け、「どうぞマウンテングして下さい。」とか口を動かす行動があります。

また、口をパクパクさせるのも大きくパクパクさせたり小さく早くさせたり、ちがいがありますが、やはりあいさつ行動のひとつです。

しかし、口を動かせるのは、お尻を向けるように順位的なものではなく、むしろ対等で互いに愛情の交信をしている行動だと云われています。

つまり、母と子や、異性関係。また、強いオスの方が弱いメスや子ザルにパクパクと口を動かせ「どうもしないよ！」という表現であって、エサをとっても強いオスは知らん顔しています。

このほか毛づくろいするグルーミングなど、さまざまなあいさつ行動がありますが、そうしたことを顔見知りのヒトたちや相手になった方々に向けているのです。

つまり人間のように言葉をもたないサルたちは、こうした色々な行動で意志の伝達をしながら、ちゃんとした平和な社会生活をつくっているのですね。

せっかく「よろしくね」とお尻を向けてくれたサルたちに檻をゆすったり、叱りつけたりすることはたいへんなあやまりなどですね。

（亀井　一成）

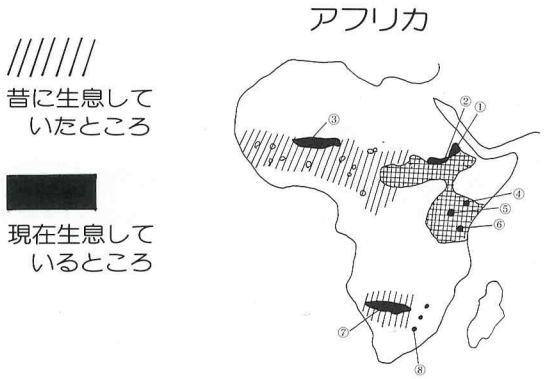
動物もの知り手帳

――なんでも知っちゃお！――

キリン

今年は王子動物園にとってキリンのあたり年です。親子８頭の大家族となって、遊び場も少々狭くなっているようです。キリンは今ではカタカナで書くようになっていますが、漢字でどう書くか知っていますか？「麒麟」というむづかしい字です。この麒麟とは中国の想像上の動物のことですがどうして首の長い動物にこの名が付けられたのでしょう。日本に初めてキリンが来たのは明治40年、上野動物園に入園したのですが、このときに動物園の石川千代松博士が名付けられたとのことです。どんな理由で麒麟と名付けられたかは不明だとのことですが、お隣の国、中国ではその昔、西暦1412年、明の時代の永楽帝に外国から献上されたと明成祖実録第155巻に書かれており、麒麟と呼んでいると、そのときに画かれたキリンの絵に文章が書かれており、中国の歴史博物館に保存されているということです。たぶん石川博士はこのことを知っておられたのではないかと今では想像するしかありませんね。他の動物園に行ったことのある人は、王子のキリンと他園のキリンが少々ちがうなとお気付きかも知れません。そうなんです。

キリンの８亜種の名前と住んでいる地域の地図



1. ナンビアキリン　(*Givaffa camelopardalis camelopardalis*)
2. コルドファンキリン　(*G. Camelopardalis ontiquorum*)
3. チャドキリン　(*G. Camelopardalis peralta*)
4. アミメキリン　(*G. Camelopardalis reticulata*)
5. ウガンダキリン　(*G. Camelopardalis rothschildi*)
6. マサイキリン　(*G. Camelopardalis tippelskircli*)
7. アンゴラキリン　(*G. Camelopardalis angolemsis*)
8. ケープキリン　(*G. Camelopardalis giraffa*)

(*Grzimek's* アニマルライフ、エンサイクロペディアによる)

キリンの古里、アフリカでは８種もの亜種キリンが住んでいます。王子のキリンはマサイキリンと云って斑紋が不規則な星型で蹄のところまで斑紋があります。アフリカの名山キリマンジャロの近くに住んでいます。日本の動物園に多いのはアミメキリンと呼ばれる斑紋が網の目の様にみえるのでそのように呼ばれ、ケニア山の北側からエチオピアの近くあたりに住んでいます。

うんと昔、日本にもキリンが住んでいたことがあるそうです。といっても百万年も前のことで、化石がみつかっているのですよ。

今ではアフリカでもだんだん住むところも狭められて来ています。貴重な動物ですから大切に育てて、神戸で孫子の代まで生きつづけさせてあげたいですね。

(権藤　眞禎)

トピックス

◈王子動物園開園30周年

1951年３月20日に王子動物園が開園して以来、今年で満30周年を迎えました。

３月15日午前10時30分から、太陽の動物舎前広場で記念式典が行なわれ、当日は宮崎神戸市長、浅倉日動水会長をはじめ、関係各機関の方々、それに市内の小学生たちが出席しました。

なお、同広場には30周年記念として、干支の動物を型どったモニュメントの『動物日時計』をつくり、その地下にタイムカプセルを埋設しました。

このほか、王子動物園では、30周年記念事業として、記念誌の発刊、ポスターの作成、それに、記念製作映面を企画製作中です。

◈王子動物園のあらまし

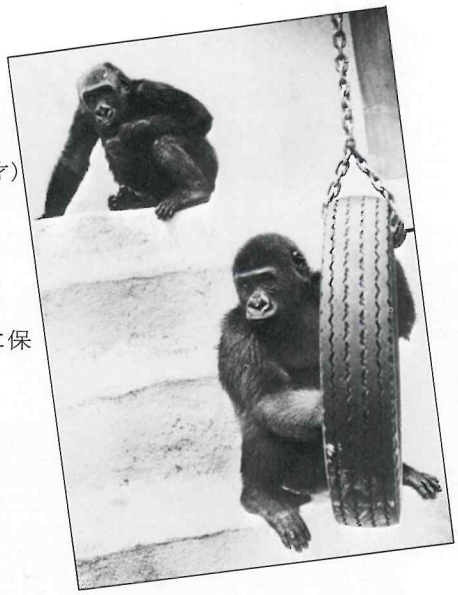
神戸には以前諏訪山（現在中央区）に動物園がありました。この動物園は、昭和３年（1928年）旧神戸財産区により開設され、昭和12年（1937年）に神戸市に移管され、神戸市立の動物園となりました。当時は、規模の小さなものでしたが、市民の憩の場として親しまれていました。しかし、第２次世界大戦の影響で猛獣などを失い、さらに飼料や燃料不足に悩まされたため、ついに昭和21年３月閉園し、残された動物たちは、国際動物愛護協会の手によって管理されたのです。その後、昭和25年３月から同６月まで王子公園一帯で日本貿易産業博覧会（通称神戸博）が開催され、終了後の跡地利用として、この博覧会で人気のあったインドぞう（摩耶子）や諏訪山に残っている動物たちを集め、王子公園の一角に動物園をつくることが決定されました。

その後、インドぞう（諏訪子）などの動物を購入し、昭和26年３月20日、神戸市立王子動物園として正式に開園したのです。当初は、動物数も少なく、施設も貧弱なものが多かったため、翌年から、本格的に動物の収集や施設の建設に力をそそぎ、昭和40年代にはいり、ようやく動物園らしくなりました。

くろさい・チンパンジー・グレビーしまうまなど日本で最初の繁殖に成功したり、中国など海外の動物園との交流、それに、施設面では、可能な限り自然をとり入れ、安全で決適に見ていただける動物舎の建設や、休憩所・広場の整備に努め、日本でも有数の動物園に数えられるまでに発展しました。動物を使てたショーなどを行なった時代もありましたが、動物愛護の観点から次第に中止し、動物園の本来的業務として、サマースクールや日曜映画教室など、社会教育活動に力をそそいでいます。

また近年、動物病院を設置し、園内飼育動物の健康管理を強化するとともに、負傷や衰弱した野生動物の保護治療など、自然保護の一端も担っています。

◈18年ぶりのゴリラ来園!!



去る６月22日(月)若いローランドゴリラのペアがやって来ました。
王子動物園では、昭和38年に上野動物園から〝ザーク〟(現在27才)が来て以来18年ぶりのゴリラです。
新しく来たゴリラは、雌雄とも４才のたいへん元気な子たちで、さっそく動物園の人気者に加わったようです。
なお、ゴリラは絶滅に瀕した野生動物として国際的に最も厳重に保護されている動物の一種です。

◈王子動物園のポスターができました

開園30周年記念事業として、２種類のポスター「カバとホッキョクグマがそれぞれ水しぶきをあげているところ」を作成しました。なお、ポスター作成記念として、海外の動物園とのポスター交換による、ポスター展の開催を予定しています。

（稲田　眞一）

編集後記

海山の恋しい季節、１年振りに、はばたき11号をお届けします。
今年は、開園30周年を迎え、また動物の繁殖など話題の多い年です。
はばたきも、次号に向い新な決意でがんばります。　　（編集室）

昭和56年度の入園券

おもて

うら

はばたき　第11号　昭和56年7月20日　発行
編集：神戸市立王子動物園
発行：神戸王子動物園協会
神戸市灘区王子町3丁目1
1部　100円
8171500(H)